

花時計



vol. 44

2023 March



特集 新学長・新副学長を迎えて

- 教員エッセイ
- 学科&大学院の Topics of the year
- 新任教員紹介
- BOOKS 新刊紹介
- 行事報告
- 心理相談センターの活動
- 退職教員



川村学園女子大学

我孫子キャンパス / 目白キャンパス

新学長・新副学長を迎えて

本年度から学長に就任された西川誠先生、副学長に就任された鵜沼秀行先生と3人の学生との座談会が行われました。学生たちからは、就任にあたっての感想、学長・副学長の仕事について、また先生方の学生時代や趣味、本大学の学生に期待することなど、多岐にわたる質問が飛び交い、普段は聞くことのできない先生方のプライベートな話にも迫った活気のある座談会となりました。

日時：9月28日(水) 13時～14時

場所：学長室

出席者：西川 誠 学長 鵜沼 秀行 副学長

日本文化学科4年 渡辺 瑠彩朱 児童教育学科4年 坂本 希子 生活文化学科4年 平出 香菜子

就任にあたって

渡辺 西川先生、鵜沼先生、学長、副学長ご就任おめでとうございます。まずは、学長、副学長に就任されたお気持ちや感想をお聞かせください。



西川 副学長を7年間やっていましたので、学長の仕事も、そんなに変わらないかと思っていたんですが、やはりいろいろ変わることがあって…。半年経ちますが、まだ戸惑いがあります。前学長の熊谷先生は、こんなとんでもないことをされていたんだと、そう思っています。決めるのが一番大変です。皆さんに関係があることでは、コロナ禍でオンライン授業にするか、対面授業にするかがありました。いろいろな人から意見を聞くんですが、最終的に決めるのは私なので、大変責任ある仕事を引き受けてしまったと感じています。

鵜沼 私は去年まで文学部長と事務部長を兼ねていたんですが、4月から随分仕事が変わりました。副学長

は学長先生を助ける仕事なんですが、一番は、かなりの会議を私が司会をしてまとめていかなければならないことでしょうか。何を決めるか、決めたことを後でどう活かすかなど、特にまだコロナ禍ですから、その対処を学長先生と相談しながら考えていくことが、なかなか大変だと思っています。



学長・副学長の一日

坂本 学長、副学長の一日のルーティーンを教えてくださいませんか。

西川 そうですね。週明けの月曜日は、大学に着いてまずメールの確認をします。先生方や職員の方々から届くメールを読んで、返信メールを送ったり、連絡を取るのに30分くらいはかかります。そうこうしているうちに、事務部長や修学支援部長が決裁することや報告などがあってやってきて、話を聞いていると、もう2限の授業時間になります。今はあまり授業を担当し

ていないんですが、月曜日は2限に授業があります。昼からは、副学長が統計分析を行った分厚い書類を持ってきて、それを読んだりがずっと続くんですよ。私はあんまり統計とか得意じゃないんで大変です。それであつという間に夕方になって、夕方になると、今度は先生方が相談事にやってきて、お話を聞いて18時ぐらいで終わって、あ、次の仕事の準備しなきゃで、もう19時。そんな感じで一日が終わります。

鵜沼 一日のルーティンは大体学長と同じような感じですね。授業も減らしてもらったので、今は、月曜と木曜の2日になりました。ただまあ、朝から授業があつたりすると忙しいですね。休み時間に戻ってきたら、もう次の授業、みたいな感じですから。その合間に事務部から電話かかってきたり、メールが入ってたりがあります。まあそういった仕事は大体授業のない火曜とか水曜とかに大体まとめて…。正直言うと、土日やってますね。それでいつも家で仕事ばかりって怒られるんですよ。「また土日に出かけるの?」とかねえ。あの私は、入試委員長もやっていて、オープンキャンパスの責任者なんで、週末家にいないことが多いんです。それで、最近は家にいると、「あら、今日はいるの?」って言われちゃいます。

坂本 学長、副学長がそんなにご多忙とは知りませんでした。それに加えて授業も担当されていらっしゃるんですね。

西川 でも、授業をやっていた方が、ストレスが減りますね。皆さんと授業を通して接することで、成長もわかって安心できますから。1年生の時のレポートと4年生の卒業論文を比べると、皆さんの成長が実感できて、ああ、よく頑張ったなって思えるんです。



児童教育学科4年
坂本 希子

就任から半年で大変だったこと

平出 この半年で大変だったことは何ですか。

西川 直近では、今年度の卒業式を決めるのに時間がかかりました。今年度は卒業式、卒業パーティーができたらいいなと思っているんです。ただコロナもまだ

収束していないので、行うにしても、安全を考えてどのように行つか、保護者の方が式に参列することができるのかなど、時間をかけて話しあってきました。コロナ禍でいろいろな想定をして決めることが大変です。

鵜沼 そうですね。ICT支援委員会の委員長も兼務しているので、IRセンターで様々な分析をして、学長先生にお渡しするという仕事が多く、それも大変でしたが、やはり会議の取りまとめが一番大変でした。会議って準備も、そのあとの処理も大変なんですよ。会議自体は一時間であっても、その前後に何時間もかかって…。それで大分時間を使いました。



生活文化学科4年
平出 香菜子

仕事の合い間の気分転換は

渡辺 お忙しい仕事の中で、先生方はどのように気分転換をなさっているんですか。

西川 あまり気分転換にはならないんだけど、軽めのもスリリー、というかホラーなのかな、最近、内藤了という人のちょっと怖めの本を読んだり、あとは米澤穂信という推理小説家の本を読んだりしています。書類を読んだりした後に本を読んでも、気分転換にならないですかね。

鵜沼 私は仕事の合い間に音楽を聞いたりしています。スポティファイって知ってますか。スポティファイのフリーミュージックをかけて、でも時々CMが入ってきてムツとするんですけど…。それから、車が好きなんで、仕事が終わったあと、気晴らしに少し遠回りをして帰ったりしますね。そんな感じかな。



日本文学学科4年
渡辺 瑠彩朱

学生時代について

平出 先生方が学生時代に力を入れていたこと「学チカ」を教えてください。

西川 今は「学チカ」というんですね、学生時代には能をやっていました。4年生の時には面をつけて、装束を着て舞っているんです。能にはかなり力を入れました。それを今も続けていけばいい気分転換だったと思うんですが…。今はもうお風呂に入った時に、謡をするくらいですね。足を悪くして、痛くて正座もできませんし、まあ、学生時代、一番力を入れていたのは能でしょうか。

平出 そんな高尚な趣味をお持ちだったとは。

鵜沼 私は大学に入ってから、友人とサークルみたいなものを作って、ふらふらと渋谷あたりで飲み歩いていました。そのうちに勉強しようかなと思うようになって、大学院生のところへ行ったら研究会をやるから来るようにと言われて…。その頃から学問に目覚めちゃいました。授業はあまり熱心じゃなかったんですが、自分で外国の論文を引っ張ってきて、よく実験をやっていました。

渡辺 先生の学生時代のお話、ちょっと意外でした。



大学教員になったきっかけは

坂本 大学教員という仕事を選ばれたのは、どうしてですか。

西川 私の場合、教員になろうとあんまり思っていまませんでした。日本史が専門なんですけれど、日本史の勉強できたらいいなと思って大学に残っていたので。そうですね、教員というのは、結果としてそうなっているって感じです。実は、自分が本当に教える仕事に合っているかどうか、いまだにわからないんですよ。

鵜沼 私は…どうでしょうね。初めから教員になろうと思っていたのかなあ。多分、漠然と想っていたのかもしれないですね。心理学の就職口は比較的あるんですけど、私はあんまり就職に向いてないって自分で思ってたので…。まあ改めて考えてみると、親が教師だったもんですから、教員という仕事がイメージしやすかったのかな。



大学で学び、成長してほしいことは

渡辺 先生方は、私たちにこの大学でどのようなことを学んでほしいと思っていますか。

西川 まずは、川村学園女子大学の理念である「自覚ある女性」を目指してほしい。そのために学び続ける芯の強さを身に付けてほしいなと思います。そして生涯にわたって、学問だけでなく、自分が大切に思っていることをバージョンアップしていく姿勢を忘れないようにしてください。

鵜沼 同じようなことになりましたが、挑戦し続けることが大事なのかなと思うんです。簡単なことからでもいいので始めてほしい。始めてみるとその先が見えてきて、続けられたという経験が私の中ではあるので。そういった延長線上に今の私があると思っています。

西川 私が皆さんと同じ歳の頃、ある方が…五十代くらいの方だったと思いますが、「あなたたちは未来人だ」と言ったんです。それを聞いて最初は何のことだろうと思いました。でも、今では言いたかったことがわかるように思います。その方は「私の知らない未来を、あなたたちは見ることができる。その未来の中で自分を活かせるように、積極的にいろいろなことにチャレンジして成長してほしい」と、エールを送ってくれたのだと…。私も皆さんにそうあってほしい、そんなエールを送りたいと思っています。

鵜沼 そうですね。それから、皆さんには人との出会いを大切にしてほしいと思います。私たちが何かやり始める時、そこには人、やっぱり人がいるんです。友人でも先生でもいい。その人たちがきっかけを与えてくれたりする。そういう人との繋がりを大事にしてください。それが皆さんの成長を支えていくのではないのでしょうか。

川村学園女子大学の魅力

平出 先生方の考える川村学園女子大学の魅力をお聞かせください。

西川 川村学園女子大学では、先生と学生、職員と学生との距離が近い。学科の先生は皆さんの名前を全員知っていますよね。その温かい環境の中で、学生生活を送れることが魅力ではないでしょうか。

鵜沼 そうですね、マンモス大学に行くと、学生がいなくてもわからない。この大学は違いますよね。皆さんにとってはいいかどうかわからないけど、いないとすぐにわかつちやいますね。そんな風に人との繋がりを築いていくことができたのは、この川村学園女子大学だからこそだと思います。

ところで、皆さんは川村の魅力はどう思っていますか。

平出 先生方がおっしゃっていたように、先生や職員の方々との距離が近かって、本当にいいなって思いました。先生も職員の方々も、私の顔も名前も覚えてくださって、とても安心感がありました。ですから、コロナの時は早く大学に行きたいと思っていました。本当に寂しかったです。

坂本 私は川村の自然にあふれているところがとても好きです。児童教育学科だと理科の授業で観察などが多くなるんですが、1年生の時は大学の構内で花や虫の観察をすることができました。教員になった時、子供たちにその経験を活かした授業をして、観察する楽しさ伝えたいと思っています。

渡辺 私は実技科目で日本舞踊を履修していたんですが、振り付け覚えるのが苦手で…。そんな時、同じ科目を履修している先輩が快く教えてくれて。いい意味で序列がなくて、みんな仲良く話せるのにすごくびっくりしました。それで、私自身も優しくなれたように思います。



社会に巣立っていく私たちにアドバイスを

坂本 あと半年で私たちは卒業を迎えます。最後に、社会に出て行く私たちにアドバイスをくださいますか。私は来年の4月から教壇に立つ予定なんですが、教員として、どのように子供たちと向き合っていくらよいのでしょうか。

西川 自分ができてるかどうかかわからないですが、子供たちのいいところを探してあげてください。マイナスで

はなくプラスを見つけて褒めてあげること、そういう視線で子供たちと接することが大切ではないかと思います。

平出 私は、とてもいい人間関係の中で学生生活を送ってきたので、社会に出た時、果たしてうまくやっていけるだろうかって少し不安に思っているんです。

鵜沼 確かに人間関係は難しい。時に世の中にはびっくりするような人もいますよね。でも「案ずるより産むがやすし」で、実際一緒に仕事してみると、意外にうまく進んだりすることも多いなと思いますね。だから、あんまり心配しすぎなくても大丈夫かな。

西川 息抜きをするというか、疲れた時は休んだらいいと、私は思います。私たちの世代と違って今は転職するのも一つの手段ですから。どうしても辛かったら、別の道を探すのも手ではないでしょうか。先ほども言いましたが、未来の中で自分を活かせるよう、いろいろなことを経験して行ってほしい、そんな「未来人」になってください。

学生 西川先生、鵜沼先生、楽しいお話をありがとうございました。これからも私たちを温かく見守ってください。



座談会のあとで

渡辺 西川先生、先生のインスタの「ニシ散歩」で知ったんですが、先生は京都のご出身なんですね。実は私、来月京都旅行をする予定なんですが、おすすめの場所があったら教えてください。

西川 どんなところに興味がありますか。庭とか仏像とか、それとも怪異なところとか…。

渡辺 ちょっとディープで怪しいところが…。

西川 それではここからはオフレコで……。

話はまだまだ尽きないようです。

※座談会では、ほとんどの時間マスクを着用しています。

ケアの研究から共生へ

生活創造学部 生活文化学科
齋藤 美重子



本学科に所属し僚友にも恵まれ、科研費が通ったことをきっかけに以前より関心の高かったケアラーに着目して研究をしています。文献研究によりケアの歴史の変遷を辿っているうちに、ケアは特別な人のためのものではなく、すべての人のことだと再認識しました。成人へのアンケート調査からはケアしケアされている人がいる一方で、ケアせずケアされてもいないという社会的に孤立している人が3割近くいることが明らかになりました。孤立・孤独社会に対するアプローチが必要ですし、その一つとしてケア教育も重要だと思われまます。

ケアの背後に潜んでいる貧困や差別など社会構造的問題にも向き合うことになり、ケアラー支援やケア教育研究の動向を探る中で、自己責任論に陥らない自立とは何か、家庭科教育における自立と共生とは何かについて探究しています。「共生」は多様性の尊重と捉える人が多いのですが、多様性に潜む差別・偏見・無視・無関心があります。ですから共生は、環境との相互作用の中で、対話を重ね、時にせめぎ合いながら多様性と人権を尊重しともに生きることであり、ケアし合うプロセスを重ねながら更新し続けなければならないことと考えます。

こうした専門知を社会に還元すべく、NPO法人アジア太平洋資料センターのアドバイザーとして、視聴覚教育教材のDVD作成にも携わっています。家庭科教育法の授業

では、自立と共生を目指す家庭科教育カリキュラムを学生とともに検討します。学生との相互応答性のある授業はお互いに学びを深め、社会構造的な問題への気づきからフェアトレードを広める活動や路上生活者への食材配布ボランティア活動など行動の幅を広げています。

さらに、2019年より生活文化学科では、我孫子市の後援を受けて地域に開かれたケアラースロンを開催しています。参加者は思いのたけを生き生きと語っていました。語り合う場所がなかったことやケアラー同士のつながりが持てなかったことが明らかになりました。ライツベースアプローチによる当事者性をもった共感し合える場の必要性を痛感しています。特に若者たちの場合、他人から言われるまで自分自身がヤングケアラーであることに気づいていなかったり、今の生活が当たり前すぎて誰かに相談することも諦めている現状がみられました。ヤングケアラーの問題は社会の問題でもあります。

そこで、ヤングケアラーに寄り添い生きることを考える哲学対話の授業プログラムを開発し、いくつかの高校で実践していただきました。その結果を分析して学会や雑誌でも発表しています。今後、ヤングケアラーがセルフアドボカシーを発揮するために周囲の環境がどうあればいいのか再検討して、セルフアドボカシーを導入した汎用性のある学習のデザインを社会教育へと展開させていきたいと考えています。ケア研究・ケア教育実践をとおして共生社会に向かう一助になればと思っております。また、ケアラースロンをさらに充実したものにして人と人とのネットワーク構築に微力ながら尽力いたします。

理論と実践との往還・相互作用の中で、未来ある社会に貢献できる研究を目指して日々精進してまいります。



鶴雅祭でのフェアトレードコーヒーやフードロスバナナシェイク販売の様子



第1回ケアラースロンのポスターとケアラースロンの様子



鶴雅祭で行われた第10回ケアラースロンのポスター

It's my cup of tea ~私のお気に入り~

文学部 国際英語学科
小泉 朝子



紅茶が好きだ。イギリス語学研修中に紅茶の美味しさに仰天してから、ずっと紅茶派である。以来、論文を書く時も、授業の準備をする時も、1日に1限、2限、3限、4限と4コマ連続で授業が入ってしんどかった時も（川村ではありません）、飲んでいたのは紅茶だった。マグカップに丸いティーバッグを入れて熱湯を注ぎ、濃い色味になるまでこれをスプーンで絞ってコクを出す。その後、ミルクを足して飲むのが私のスタイルだ。今も研究室で飲んでる。休息を取る時、気分を変える時、自分をねぎらう時…私は紅茶を飲んでいる。

学生にも目撃されることが多い。彼女たちは、私が紅茶

好きだと知ると、かなりの確率でこう聞いてくる。「トワイニングやフォートナム・メイソンの紅茶を飲んでいるのですか？ポットに茶葉を入れて？」と。つまり、高級ブランドの紅茶を伝統的なアフタヌーン・ティーの作法に則って飲んでいるのか、と聞かれているわけだが答えはノーだ。私が飲むのはお手軽ティーバッグで作った略式紅茶なので、ほぼ確実に「普通ですね…」とがっかりされる。普通の紅茶だとまずいのか…？イギリスで出会った大多数のイギリス人は、この淹れ方だったのだが。

学生が「高級な紅茶を茶葉から淹れるのが正統だ」と考えるのはなぜなのか。『紅茶の帝国：世界を征服したアジアの葉』はこれについて、「高貴な女性が広めた高貴な飲み物＝紅茶」というブランディングが18世紀から浸透しているためだと分析している。*紅茶の普及には大々的に男性が関与した事実が数多あるにも拘わらず、こうした言説が流布した経緯について、同書は膨大な一次資料を積み上げて例証しており、圧巻だ。

そして、このブランディングが始まった時代に知名度を

上げた茶葉取扱い業者がフォートナム・メイソンである。この名称を聞くと今も私の脳裏に昔の記憶が甦る。語学研修中、「今日はフォートナム・メイソンに行ってきます」と告げた私に、ステイ先のランドレディはこう言った。「なぜ？テスコの紅茶の方がおいしいのに」（テスコはイギリスの大手スーパーだ）。味が薄い、と警告されたのだ。「うーん、お土産用にね…」と答えた当時の私も、ブランディングに嵌っていることが明白だ。（勿論、高級ブランドの紅茶はストレートティーで飲んでも風味豊かで美味ですよ。）

紅茶＝高貴な飲み物というイメージは今も広く浸透中だ。某警察ドラマの主人公もカップ＆ソーサーで優雅に紅茶を嗜む姿がデフォルトだし、「ヌン活」も人気が高い。だが、私にとってのティータイムは、コクが出るティーバッグとお湯とミルクがあれば事足りる。自宅で構わない。研究

室で構わない。普段の姿で、マグカップで飲む紅茶が一番おいしい。

ひと息いれる時、大事な話をする時…自分自身との、そして誰かとのコミュニケーションのツールとして極めて重要なものが、私にとっては、この普段着の紅茶なのだ。本国の認識も同じだろう。コロナ禍以前、学生の相談に乗るときは必ずこの紅茶を相手に渡して話を聞いた。ゼミの学生にも同様だ。これからも、感染防止対策を万全に講じた上で、普段着の紅茶の味を広め、お上品なだけではない、紅茶の魅力と底力を知ってもらいたいと思っている。



*マークマン・エリス他著 『紅茶の帝国：世界を征服したアジアの葉』 研究社、2019年

感性を磨いて未来を拓く
—ひらめきを磨き鍛えよう—

教育学部 児童教育学科
横山 悦子



昨年度より、大学に勤務している。指導の対象が小学生から大学生に変わり、初めは戸惑いもあったが、「繋がり」を意識すると不安が小さくなった。考えてみれば、成人した学生も、十年前はみんな小学生だった。その認識が私の納得解に入ると、「やる気スイッチ」が押され、次第に楽しめるようになった。

ある日、講義の中で俳句を扱う機会があり、前任校（我孫子市立新木小学校）で実践した作品を紹介した。すると、学生達は一様に目を丸くして、「えっ、すごい。こんな発想は思いつかない」と、口々に呟いた。小学生の素直なものの方や考え方は、学生達にとって実に新鮮で、心にピンピン響いたようである。

今、子ども達に必要なのは時代を予測し生き抜く力である。その鍵を握るのは…？人口知能が目覚ましい発展を遂げている現在、知識・技能は大事であるが、それらを活用する思考力や想像力が求められている。どんな未来になるかを予測する力こそ、大切になるだろう。まさに「ひらめ

き」であり、必要なのは、鋭い感覚や頭の働きである。ある本に、「遺伝子レベルで見れば、想像したことが実現できる時代である」と記してあった。思ったことを叶える能力が人間に潜在しているらしいのだ。なんて、人間はずばらしい生き物であろう。私は、その「ひらめき」を育成できるのが、俳句であると捉え、学校をあげて俳句に取り組んできた。

現段階において、人口知能に「ひらめき」の機能を持たせるのは難しいらしい。それでよいではないか。ロボットが人間になったら、おそらく人間は破滅する。永遠の命を持つロボットの方が人間より優勢であろうことは歴然としている。

確かなことは、「ひらめき」は人間だけが持つ「超お宝」であるということだ。だから、とことん磨き鍛えたいと思うのだ。



「想像の泉」に命の水輝く

昨日、火星から転入生がやってきた
修学旅行の行き先は宇宙なんだって
百年後の学校では
地球の命を救う対応策について
世界がひとつになって頭を捻っている

新時代をつくるのは子ども達
どんな時代になるのか
いや、どんな時代を築くのか
必要なのは時代を予測し生き抜く力
その鍵を握るのは、「ひらめき」だ

ひらめきは世界を変える
感性を磨いてひらめき力をあげよう
ひらめきの水の粒が集まると池となり
やがて、広々とした「想像の泉」となる
困った時に使うと乗り越えられる

想像の泉の正体は「生きる力」だ
いざという時のため泉に水を蓄えよう
未来をたくましく生きぬくために…
泉の水があふれると背中に羽が付く
「想像の翼」と呼ぶが、目に見えない

あらぎつ子は俳句をかいで感性を磨いた
自然や動植物と対話しているうちに
目の前にいる人の心が見えるようになった
視線の先が「あなた」から「地球」へ転じ
七十九億の命を乗せた地球は瑠璃色に輝く
俳句は世界で一番短い詩
十七音だが五十音の組み合わせは無制限だ
みずみずしい心を感じてほしくてまとめた
あらぎつ子の命あはれる十七音
春が来てこのHAIKU君に届けたい

「学校経営は想像の泉」より抜粋
二〇二二年十二月刊行

国際英語学科

国際英語学科では「英語を使う」体験を重ねて実社会で役立つ英語運用能力を培うことを重視し、さまざまな活動を行ってきました。昨年度はオンラインで開催していた行事も、今年度は対面形式で開催することができました。



1年生の英語レシテーション・コンテストは6月の予選、鶴雅祭での本選ともに、実に3年ぶりに対面形式で開催しました。



9月の川村英文学会第28回大会は、オーディエンスは本学科の学生と教員に制限しましたが、こちらも対面形式で開催することができました。本学で非常勤講師を務めておられる杉下文子先生を講師にお招きし、「世界に花ひらくグローバル・ジャパニーズ女子力とは」と題してご講演を賜りました。さらに、社会で活躍している卒業生2名によるスピーチや、就職活動を無事に終えた4年生によるアドバイスもあり、大変有意義なものとなりました。

また、今年度はイギリスのチチェスター・カレッジへの長期留学が再開され、5月に卒業生を含む本学科の学生4名が日本を出発しました。寮生活の学生もホームステイの学生も皆、順調な様子を知らせてくれ、国際交流活動の復活を象徴する大きな一歩となりました。(佐藤 翔馬)

心理学科

心理学ゼミナールでは、卒業論文の予行演習として、ぬいぐるみ(パペット)を抱くことによる気分変化の研究をみんなで実施してみました。ぬいぐるみを抱きながら話した場合と何もなしで話した場合で気分調査票の数値を比較すると、どんな話の内容でも怒りの数値が低下しました。

高齢者施設、こども病院などでは、アニマルセラピーが行われている施設があり、触れ合った参加者は気分が改善したり、治療に前向きになったりする研究成果が得られています。ただ、アレルギーを持つ参加者などには健康被害が起こらないようにぬいぐるみロボットなどを用いる施設があり、同様の結果が出ています。大学生に実施したぬいぐるみ(パペット)今回の結果も同様の結果となりました。

ぬいぐるみのパペットは、通常、こどものセラピーで用いられ、こどもが知らない大人(セラピス)となるべく早く仲良くなって、様々な不安を低下させ、遊んでいくうちに、トラウマや辛さを表現できるようになる道具です。ぬいぐるみのお腹あたりから手を入れて口を動かして「今日はどうしたの?」とワンコから言われると、こどもとしても緊張せずにお話できます。

(簗下 成子)



史学科

史学科では、学外に出て「ホンモノの歴史」に触れる機会を多く設けています。幸い今年度は多くの行事や学外授業が再開できました。

1年生は学科単位ではありましたが3年ぶりに入学式を行うことができ、7月には親睦会で交流を深めました。2年生は4月末に国立歴史民俗博物館の「中世武士団」展を見学し、7月に東京文化会館でオペラ「パルジファル」(宮本亞門氏演出)を鑑賞しています。

3年生は6月に国立劇場での歌舞伎鑑賞教室に参加し「彦山権現誓助剣」を鑑賞してきました。また「日本史演習」3クラス合同で能楽鑑賞教室や文楽鑑賞教室にも行っています。4年生は夏休み期間の8月に辻浩和ゼミ(日本史)が北海道へ、9月初頭に塩谷ゼミ(考古学)が大阪と奈良へ、高津ゼミ(中国史)が京都へゼミ旅行に行っています。目的地はそれぞれのゼミの学生たちが主体的に選定した結果です。

10月に開催された鶴雅祭では3年生が中心となりSHIGAKUKA cafeを出店しました。メニューはピザとパンケーキにドリンクで大盛況となりました!

来年度はさらに積極的に学外授業を行い、歴史を「体感」していきたいです。と同時にこの2年で蓄積されたITC技術も授業内で活用していきたいと考えます。(原田 晶子)



日本文化学科

日本文化学科では学外授業に力を入れています。専門科目「日本の美術(1)」【担当・眞田尊光】では成田山新勝寺の見学、「日本文化専門演習Ⅰ(1)(比較文化・日本文化論)」【担当・伊藤純】では佐倉市立美術館と国立歴史民俗博物館、「日本文化専門演習Ⅳ(1)(日本語学)」【担当・長崎靖子】では東洋文庫ミュージアムの展示見学を行いました。1～3年生が参加する伝統芸能鑑賞教室では、学年ごとに歌舞伎・文楽・能楽を鑑賞し、表現法や作品の世界観を体感しました。

今年度は、実技科目「日



本文化実技(Ⅰ～Ⅵ)」の発表会も本格的に再開しました。「能の仕舞・謡い」【担当・葛野りさ】の履修生は東京涌宝会大会(於・宝生能楽堂)に出演し、また3年ぶりの開催となった鶴雅祭では「日本舞踊」【担当・西川祐子】の履修生がその練習の成果を披露しました。

ようやくコロナ禍以前の活動に戻りつつある日本文化学科ですが、これらを通して実体験を重視するという日本文化学科の特色を改めて感じた1年となりました。

(伊藤 純)



教育学部

Faculty of Education

TOPICS OF THE YEAR

幼児教育学科

「多様な〈ひと・もの・こと〉との出会い」を4年間の学びのプロセスで感じ経験しながら「保育者」として大切なことを一人ひとりが学べるようサポートしています。

1年生は、基礎ゼミナールや各教科において感じたり考えたり行動する意欲を培います。中でも幼児教育体験学習では国立科学博物館へ行き、知見を広げながら友達とコミュニケーションを高めました。また附属保育園に出掛け、子どもの発想力の豊かさに触れ遊びの大切さを知りました。2年生は、実習、演習授業も始まり、附属保育園での学びから保育内容の領域ごとに保育実践について理解を広げ深めます。10月に行われた「鶴雅祭」ではピアノの連弾発表会を行い、一人ひとりの技術向上も含め、アンサンブルの楽しさや喜びを感じました。3年生は、基本的な保育実践力を各教科で



高めながら、保育実習や教育実習を行います。卒業研究演習が始まり、自分が興味のある分野を仲間と共に深め合う姿があります。4年生は、これまでの学びを踏まえ、卒業研究とともに保育・教職実践演習において応用的な保育実践力を身につけ将来への準備をします。

このように、本学科では4年間で段階を踏まえた学びを行い、学年ごとにねらいを立て、学生一人ひとりの良さやその人らしさが発揮できることを願っています。(山下 佳香)

児童教育学科

「先生になりたい」という夢を実現するための学科です。そのために、知識や技能だけではなく、「体験」を多く取り入れ授業を行っています。コロナ禍の影響を受け交流が進まない中、ようやく日常が戻ってきました。今年度は、「一年生の歓迎会」「文化祭」などの行事を三年ぶりに開催することができました。ここでは、本学科の体験のいくつかを紹介します。

1年生は、5月、基礎ゼミナールにおいて、「我孫子第二小学校」を訪問し、各学年の授業を参観してきました。校長先生から、「先生のすばらしさ」についてご講話いただきました。



2年生は、年間を通じて、コホミン(湖北地区公民館)での学習支援を行っています。学習を受ける立場から学習を与える立場になり、教師の目線で児童を支援するポイントを学んでいます。

3年生は、後期に「4週間の教育実習」を行っています。学生たちは皆、「たいへんだったけれど充実していた」と語り、教師になりたい気持ちを膨らませ戻ってきます。感謝の気持ちを持ち、本気と覚悟を胸に魅力的な先生になって欲しいと願っています。(横山 悦子)



生活文化学科

生活文化学科では、以前より千葉県我孫子市の地元農家さんと一緒に産・官・学連携、地域連携等に取り組み、食品ロスに着目して「商品開発」をしてきました。

大正時代、我孫子市の手賀沼のほとりに、白樺派と呼ばれた文人たちの柳宗悦、武者小路実篤らが移住していました。当時、柳宗悦夫人の作るハイカラな「カレー」が食されていたと記録に有り、それを現代に合うようレトルトカレーにしたものが「白樺派のカレー」です。その白樺派のカレーに入っているチャツネの代替品として「廃棄されるトマト」を使用した「トマトジャム」を入れたものが「白樺派のカレー kawamuraバージョン」です。



大正時代の福神漬けのレシ



ピを参考に、「白樺派のカレーkawamuraバージョン」にピッタリの「川女のおつけもの」を開発しました。国産の規格外野菜使用、添加物不使用でSDGsを視野に入れました。

この度、「川女のおつけもの」が、我孫子市商工会の審査員満票で高評価を頂き、「我孫子市ふるさと産品推奨品」に認定されました。

鶴雅祭では、「白樺派のカレーkawamuraバージョン」と「川女のおつけもの」を販売し、廃棄されるペットボトルキャップを使用したミニピンクッション作りのワークショップには、多くの方が関心を持って参加してくださいました。(高橋 裕子)



観光文化学科

観光文化学科では、「普段の食事の選択肢に東京都産の農作物を」を目的に4月から32名の学生が東京都日野市のネイバースファームとの産学連携プロジェクトに取り組みました。持続可能なフードシステムを守るために、消費者が「食を取り巻く環境に配慮した消費行動」を行い、東京



都民が東京都産の農作物を食べることが重要であるという考えのもと、学生が直接、目白周辺のカフェ3店舗に協力要請を行い、期間限定で美味しい東京都産のブルーベリーを使用した商品の販売を企画いたしました。

商品に使用したブルーベリーは、学生が実際に農園で収穫したもので、「cafe & studio nest」、「CAFE CUPOLA mejiro」、「カフェ アコリット」にご協力いただき、パイやパウンドケーキ、シェイク、タルトなどを販売していただきました。このような産学連携の取り組みは、座学で学んだことを観光ホスピタリティ産業で実践し、企業や地域との結びつきの中で社会人基礎力や問題解決力、実践力を高めることに繋がっています。(江口 智子)



大学院

大学院生の心理実習

心理学専攻の大学院生は臨床心理士と公認心理師の資格取得に向けて、心理実習を行っています。しかし、昨年度は不要な接触を避けるために当初予定していた開始時期を遅らせる、または実習生の人数を制限するなどの対策を立てることになりました。

今年度は大きな混乱もなく、1年生の学内実習と2年生の学外実習が予定どおり開始することができました。1年生は入学直後からカウンセリングのロールプレイを繰り返し、カウンセラーのトレーニングを積み重ねてきました。また、6月からは大学内に併設された心理相談センターでの受付実習が始まり、相談者との実際の関わりを学んでいます。

2年生はすでに修了生から引き継いだケースを教員の指導を受けながら担当しています。さらに4月からは教育分野または医療分野にそれぞれ分かれ、インターンとして臨床現場での学外実習が始まりました。教育分野では適応指導教室での不登校支援、医療分野では気分障害の集団心理療法や復職支援の補助として、現場指導者から指導を受けています。

また授業の一環として、子ども家庭支援センターや刑務所など、日頃なかなか知ることができない臨床現場にも予定どおり見学実習を行うことができました。

(佐藤 哲康)





生活創造学部 生活文化学科
香山 綾子 教授

生活文化学科に着任いたしました香山綾子と申します。専門は生命科学分野で、主に栄養の感知機構を遺伝学や脳科学を用いて研究しています。これまで、研究所の研究者や大学の教員として、研究や学生の指導に携わってきました。

担当している講義は、生化学や解剖生理学などの栄養士になるために必要な基礎科目系の座学や実験です。これらの科目は、栄養士になるために必要なだけでなく、私たち自身の身体のしくみを知る知識を提供してくれるので、これからの長い人生に役立ちます。“理系科目だから、ちょっと嫌だな…”と拒絶反応を持つことなく、積極的に学んで欲しいと思っています。“生物や化学が苦手だったけど、実は面白かった！”と感じてくれるように講義をしていきたいと思っています。

私が学んでいる環境教育や地理学はどうも学問領域が広くて困ります。化学的知識や文学的解釈が必要だったり、時には宇宙論まで話題に上ります。でもどうやらそれは私に合っているようです。深く研究している学問領域はありますが、浅くても幅広い知識や知恵などに触れると心がリッチになります。

「観光地理学」「世界地誌」「世界遺産」「地理学概説」などを担当しています。学生の皆さんには、これらの授業を通して地域を知り、世界を理解して、人の営みに思いを馳せる、幅広い学びに触れていただきたいです。ただ授業内容から派生して、くだらない脱線話に至ることもあり、困っています。

…「くだらない」？ 皆さん、「くだらない」という言葉の起源、知ってますか？ 運が良ければ脱線話で話題になるかもです。



生活創造学部 観光文化学科
君島 俊克 准教授

観光文化学科に着任いたしました、小山知子と申します。「観光英語」「キャリア・プランニング」「ホスピタリティ入門」などを担当しています。

私は大学卒業後、国内航空会社の客室乗務員となり、6年ほど国内、国際線に乗務しました。退職後は英語教室を主宰しながら、シンクタンクの研究者になり、大学の授業を担当するようになりました。「人生の8割は偶然からできている」と言われるように、偶然と多くの方の支えのおかげで現在に至っています。授業では実務経験をはじめ、人との出会い、つながりの大切さを伝えていきたいです。そして、どのようにライフイベントと向き合い、キャリア形成していくかということを学生の皆さんと共に考え、支援していける教員になりたいと思っています。これからどうぞよろしくお願いいたします。



生活創造学部 観光文化学科
小山 知子 准教授

国際英語学科に着任いたしました、佐藤翔馬と申します。よろしくお願いいたします。専門は言語学で、中でも特に意味論と語用論を研究しています。国際英語学科にはイギリスの文学やアメリカの文化を研究している先生がおられますが、私の場合は英語や日本語といった言語そのものに興味があります、と説明すればわかっていたでしょうか。

授業としては英文法やライティング、英語音声学といった英語に関する授業に加え、統語論や第二言語習得論に関する授業も担当しています。また、中学校と高等学校の英語の教員免許状を取得しており、実際に千葉県公立高等学校で英語を教えていた経験がありますので、その経験を活かして児童英語教育に関する授業も担当しています。



文学部 国際英語学科
佐藤 翔馬 講師



教育学部 幼児教育学科
白石 優子 講師

中国上海市の日系幼稚園、国立研究所等の勤務を経て、本学に着任いたしました。専門は、親子関係を中心とした臨床発達心理学です。これまで、アロマザリング（親以外の人が子育てを担うこと）、子ども虐待、親子相互交流療法（PCIT）等を研究しながら、民間団体と協働で養育者（親）支援の仕組みづくりを検討してまいりました。

本学では、「人間関係」「教育実習演習」等の科目を担当しております。「人間関係」とは、乳幼児期の子どもたちが他者を信頼し、他者との関係性のなかで自己を見出していくプロセスを理解するとともに、保育者としてその援助を学ぶものです。野鳥の訪れる水と緑の豊かなキャンパスで、学生と共に学ぶ楽しさを味わっています。

2022年度4月に着任しました山下佳香と申します。どうぞよろしくお願いいたします。これまで、幼稚園や保育所の現場でたくさんの子どもたちとかわり、子ども一人ひとりの「世界観」の面白さや不思議さ、奥深さを感じてきました。と同時に、たくさんの実習生にも出会いました。素直で若さあふれる姿から、キラキラ輝く「保育の原石」を感じました。その学生たちが養成校でどのような学びをしているのか、またどのような学びが必要なのか専門学校や短期大学にて経験させていただきました。今の時代、利便性や効率性を優先し、本質を見失うことも多々あるように感じます。人間として保育者として大切な「感じる心」や「考える力」を、本学の自然豊かな学び舎で「直接的体験」しながら、学生たちと「生きる力」を共感し合うことが「環境学」であると感じています。



教育学部 幼児教育学科
山下 佳香 講師



生活創造学部 観光文化学科
山田 裕子 講師

専門分野は、宿泊産業経営です。ホテル業での勤務経験や旅行商品の造成や情報発信を駆使した観光地づくりの実績を活かし研究や活動をしています。授業では、校外学習や企業訪問を積極的に行うことで課題を見出す力を養うことを目指しています。また、社会へ出る準備をしてもらえるよう、ゲスト講師として実務者を招聘し、ゼミ合宿では複数の宿泊施設を訪ね事業者からレクチャーを受ける機会を設けています。

好きなことを仕事にしてみましたので、大好きな温泉や日本酒は資格をとりながら楽しんできました。東京生まれ東京育ちではありますが、関西出身と間違われることもあるぐらい大らかなタイプかもしれません。どうぞ気軽に声を掛けてください。よろしくお願いいたします。

Pick Up! 新刊のお知らせ

<p>王朝文学の(旋律) 伊藤 浩平・橋本 虎雄 編</p> <p>日本文化学科 准教授 千野 裕子 共著</p> <p>出版社：新典社 発行年：2022年1月</p>	<p>日本文学の見取り図 宮崎駿から古事記まで</p> <p>日本文化学科 准教授 千野 裕子 共著</p> <p>出版社：ミネルヴァ書房 発行年：2022年2月</p>	<p>Il progetto di catasto generale nella Toscana del Settecento</p> <p>史学科 准教授 大西 克典 著</p> <p>出版社：Ediz di Storia e Letteratura 発行年：2022年7月</p>	<p>世界歴史 09 ヨーロッパと西アジアの変容 11～15世紀</p> <p>史学科 准教授 辻 明日香 共著</p> <p>出版社：岩波書店 発行年：2022年8月</p>
<p>快読「ハリー・ポッター」 ハーマイオニーとロンとの結婚をめぐるローリングの「後悔」とは?</p> <p>国際英語学科 教授 菱田 信彦 著</p> <p>出版社：小島遊書房 発行年：2022年7月</p>	<p>ルーシー・ポストン 館の魔法に魅せられた芸術家</p> <p>国際英語学科 教授 菱田 信彦 共著</p> <p>出版社：国書刊行会 発行年：2022年12月</p>	<p>学校経営は想像の泉 一併句をつくって未来を拓く</p> <p>児童教育学科 教授 横山 悦子 著</p> <p>出版社：銀の鈴社 発行年：2022年12月</p>	<p>子ども虐待を防ぐ養育者支援 一脳科学、臨床から社会制度まで</p> <p>幼児教育学科 講師 白石 優子 共著</p> <p>出版社：岩崎学術出版社 発行年：2022年12月</p>

2022年度 退職教員

【退職】 本学を退職する教員をご紹介します。皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

- | | | | |
|-------|---------------|--------|------------------|
| 塩谷 修 | 文学部史学科 教授 | 中山 佳寿子 | 教育学部幼児教育学科 講師 |
| 辻 浩和 | 文学部史学科 教授 | 内海崎 貴子 | 教育学部児童教育学科 教授 |
| 西川 将巳 | 文学部心理学科 教授 | 佐々木 唯 | 生活創造学部生活文化学科 准教授 |
| 千野 裕子 | 文学部日本文化学科 准教授 | 柳川 悦子 | 生活創造学部観光文化学科 教授 |

心理相談センターの活動

7月17日にオンライン公開講座「困難な時代を生きる」を開催しました。西川将巳先生による講演「With Coronaの時代を如何に生きるかー心療内科外来の変化からみた現状と今後の問題点ー」では専門的な内容だけでなく、コロナ禍の今こそ人と人との信頼と繋がりを大切に、とご教授いただきました。センター長の箕下成子先生による「大人と子どもの心のケア」では、こころの健康を維持し生活を豊かにするヒントとして「認知の歪み」を親しみやすい虫さんのイラストを交えてご講話頂きました。また、鶴雅祭では手作りのアロマグッズを販売しました。こうした活動からも多くの方にセンターの雰囲気を感じていただけたら幸いです。今後も地域に開かれたこころの相談室として尽力していきたいと思えます。(久保 舞)



2022年度 大学行事



この2年、コロナ禍で中止やオンラインでの開催を余儀なくされていた「鶴雅祭」でしたが、今年度は対面で行うことができました。天候にも恵まれ、多くの来場者があり、久しぶりに構内が明るい笑い声に包まれました。

花時計 vol. 44 2023年3月1日 発行日

【発行】 川村学園女子大学 【編集】 広報委員会

〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸1133番地
TEL 04-7183-0111 (代表)
ホームページ <https://www.kgwu.ac.jp/>

■目白キャンパス
〒171-0031 東京都豊島区目白3丁目1番19号
TEL 03-3951-0111 (代表)

大学ホームページ

facebook	twitter	LINE	Instagram